

ジャマイカ政治・経済月間情勢（2022年9月）

【要旨】

内政では2022年国連総会にホルネス首相が出席し、演説を行った。また、エリザベス2世女王逝去に伴い、アレン総督及びホルネス首相はロンドンにて国葬に参加した。経済では、2022年第1四半期の国内作物生産が10.4%増加した。外交においては、リベリア共和国及びマーシャル諸島共和国との外交を樹立した。日・ジャマイカ関係では、日本ジャマイカ友好協会が発足され、バートレット観光大臣が訪日。

1 内政

（1）ホルネス首相、2022年国連総会一般討論会にて演説

（ア）多国間主義／国連（抜粋）

私は事務総長とそのチームが、関連する職務権限を果たすべく、その権限の範囲内で実施している取り組みを称賛する。一方、加盟国は安全保障理事会を含め、長年の懸案であった改革と再構築に取り組まなければならない。この重要な機関は、より透明で応答性の高い活動を行い、今日の世界をより表現し、明日の世界に対してより備えが必要である。SIDSの持ち回り制の議席は、SIDS独自の視点、課題、貢献が安保理で恒常的に利用できるようにし、我々の国民に奉仕する安保理の仕事の質を向上させるだろう。（22日付国連HP）

（イ）グローバル・ツーリズム・レジリエンス・デー（抜粋）

世界で最も観光に依存している地域の観光依存度の高い国として、ジャマイカは観光部門の回復力を高めるために多大な投資を行ってきた。パンデミックの際、私たちは国内で「回復の道」を導入した先駆者であり、これは観光部門を安全に再開するための集中的で、プロトコルに基づいた、データに基づく青写真として機能するものであった。この道は、観光セクターの迅速な回復に大きく貢献した。私たちは、世界観光の回復力を強化するための取り組みに世界各国を巻き込んでいる。ジャマイカは、毎年2月17日を「グローバル・ツーリズム・レジリエンス・デー」として公式に指定することを提案する。（22日付国連HP）

（ウ）銃戦争

アンドリュー・ホルネス首相は、ジャマイカのような発展途上国への銃の流入を食い止めるため、世界の先進国に対してさらなる努力を求めた。9

月22日(木)、ニューヨークの第77回国連総会で行った広範な演説の中で、ホルネス首相は、ラテンアメリカやカリブ海のいくつかの国が犯罪や暴力の流行に直面していると指摘した。さらに、「富裕国の路上で違法薬物が懸念されているように、ジャマイカのような発展途上国の路上で銃が懸念されなければならない」と指摘した。(23日付オブザーバー紙)

(2) エリザベス2世女王陛下逝去、チャールズ3世国王陛下即位

(ア) エリザベス2世女王陛下が本日午後、バルモラル城で亡くなった。女王は英王制史上最も長く君臨し、息子のチャールズ国王が後を継いでいる。(8日付広報局)

(イ) エリザベス2世女王陛下のご逝去に伴い、チャールズ三世国王陛下がジャマイカの国家元首となられた。すべての女王の顧問弁護士(QC)は国王の顧問弁護士(KC)となり、レジーナはレックスに変更された。(8日付マラホー・フォート法律・憲法大臣公式Twitter)

(ウ) 70年にわたり英国女王および英連邦の長を務められたエリザベス二世女王陛下のご逝去を、悲しみとともに国民にお知らせする。私たちは、女王陛下の強い使命感と、他者のために生涯を捧げた献身を賞賛している。女王陛下は、その模範的なリーダーシップ、威厳、謙虚さ、そして寛大さが広く認められている。これらの資質は、現代に至るまで女王陛下の治世を特徴づけており、英連邦に多大な影響を及ぼしている。女王陛下は、晩年、体調を崩しながらも、最後まで勇敢に闘い続けた。亡くなるわずか2日前には、イギリスの新首相を任命するために出勤していた。女王陛下は、時代の変化の中で、冷静さと優しさを持ち、着実に導いてくれる旗手であった。王室、英国政府、国民、そして英連邦にお悔やみを申し上げる。(8日付総督府キングス・ハウス)

(エ) 世界は、多くの危機や困難な時期を通じて、安定した不変の力であった世界的な女性指導者を失った。70年にわたる在位期間中、エリザベス2世女王は公的な場で世界に計り知れない貢献をし、ジャマイカの親しい友人でもあった。英国の君主として最も長く君臨したエリザベス女王は、威厳と優雅さをもって導き、卓越したお役目を果たされた。1953年の戴冠式以来、女王は2000年代初頭まで、10年ごとにジャマイカを訪問された。1953年、1966年、1975年、1983年、1994年、2002年にジャマイカを訪問し、英連邦首脳

会議に参加し、その際には国会議事堂の多くの議場にも足を運ばれた。女王は在位中、ジャマイカ国民と特別な絆を築かれ、その訪問は温かい歓迎と溢れんばかりの愛情で迎えられた。女王は15人の英国首相を任命され、英連邦の成長と変革の指揮を執られた。英国および英連邦の国家元首としての在位中は、忠実で揺るぎない奉仕によって特徴付けられてきた。英国王室と政府が女王の死去を受けて「ロンドン橋作戦」を開始するにあたり、ジャマイカは英連邦とともに、計り知れない悲しみの中にある王室と英国に深く、心からの哀悼の意を表す。エリザベス女王の治世は変革的で刺激的であった。私たちは、女王の光を再び見ることができないことを悲しく思うが、彼女の歴史的な治世を忘れないであろう。(8日付首相府・アンドリュー・ホルネス首相声明)

(オ) 政府は慣習に従い、木曜日のエリザベス女王2世の逝去を受け、公式な喪に服す期間を発表した。喪に服す期間は木曜日から始まり、9月19日まで続く。(9日付広報局公式Twitter)

(カ) パトリック・アレン総督及びアンドリュー・ホルネス首相は、9月19日にロンドンのウェストミンスター寺院で行われる女王陛下の国葬に出席予定。女王は在位中、ジャマイカを6度訪問し、最初のジャマイカ訪問は、女王が国家元首として新たに任命された1953年の11月であった。首相は2002年、女王陛下による最後の訪問時、女王陛下が上下院合同会議で演説された際、新しく選出された国会議員として出席したことを述べた。(14日付広報局)

(キ) 昨日、私は国王チャールズ3世に謁見した。彼が国王に就任してからは初めてのことである。私は、チャールズ国王の新たな役割に祝意を表し、また、国王の母であるエリザベス2世女王陛下のご逝去に際して、私の心からの深い哀悼の意を表した。(18日付ホルネス首相公式Twitter)

2 経済

(1) 政府、ペットボトルのデポジット払い戻し制度を法制化

政府は今年度末までにペットボトルのデポジット払い戻しスキームを法制化する。これは国の環境や廃棄物管理の推進を改善する努力を後押しすると考えられている。8月30日にキングストンにてプラスチックフォーラムがオンライン開催

された。これまでのところ、このスキームは任意であり、使用後にペットボトルを返却した消費者に現金を払い戻すものである。(8月30日付広報局)

- (2) サングスター国際空港、14年連続でカリブ海の主要空港に選ばれる
MBJ エアポーツ社が運営するサングスター国際空港 (SIA) はモンテゴベイのサンダルズにて開催されたワールドトラベルアワード(WTA)で、カリブ海の主要空港に再び選ばれた。この賞が始まって以来、SIAにとって今回が15回目の受賞となる。2005年に初めて授与され、2009年に再受賞、その後は毎年受賞している。(2日付オブザーバー紙)
- (3) ITC、アフリカ・カリブ海間に10億米ドルの輸出額の可能性があると発表
国際貿易センター (ITC) はアフリカとカリブ海諸国間に10億米ドル以上の輸出の可能性を強調した新たな報告書を9月1日に発表した。ITCとアフリカ輸出入銀行 (Afreximbank) はまた、貿易の障壁に取り組み、その可能性を実現するためのビジネス能力を構築するために5年間のパートナーシップを延長した。(1日付オブザーバー紙)
- (4) 国内農作物の伸び
9月7日下院本会議で、パーネル・チャールズ・ジュニア農業・漁業大臣は、2022年第1四半期の国内作物生産が10.4%増の21万2,134トンとなったことを示した。2022年第2四半期(4-6月)の見積りでは、国内作物生産は2021年の同時期の四半期より7.4%増加し、21万9,667トンに成長することを示している。(8日付広報局)
- (5) 国家環境計画局 (NEPA) が2度目のポートモアでの魚の死を調査
ポートヘンダーソン漁村の漁師や周辺住民は、3ヵ月以内に起きた2度目の大規模な魚の死骸に新たな懸念を抱き、今回の災害の原因について思案している。9月21日、セント・キャサリン県のポートモアの釣り場とエッジウォーターのコミュニティーに沿った運河の土手に、何百匹もの死んだ魚が打ち上げられ始めた。これは翌日まで続いた。NEPAと国家漁業局は、魚の死骸の原因を調査しているが、一般に餌として使用されるアンチョビという種にのみ影響が及んでいる。(23日付グリーナー紙)
- (6) NWC、モナ貯水池に浮体式ソーラー計画で数百万ドルの節約を実現
セント・アンドリュース県のモナ貯水池で、浮体式ソーラープロジェクトが開始された。このプロジェクトにより、国家水委員会 (NWC) は年間約12万米ドルのエネルギー

ギーコストを削減できると期待されている。貯水池の水面に45メガワットの浮体式太陽光発電パネルを設置し、クリーンで再生可能なエネルギーを生成することができるようになる。このプロジェクトは、デリリオン・エナジー・リミテッド社により6千250万米ドルをかけて進められ、2024年の完成に向け、段階的に公開される予定。(29日付広報局)

3 外交

(1) リベリア共和国との外交関係樹立

ジャマイカ政府とリベリア共和国政府は、9月22日(木)に国連本部で行われた第77回国連総会ハイレベル・ウィーク・セグメントで署名式を行い、外交関係の樹立を正式に決定した。(22日付ジャマイカ国連政府代表部プレスリリース)

(2) マーシャル諸島共和国との外交関係樹立

ジャマイカは9月23日、ジャマイカ国連政府代表部事務所にてマーシャル諸島共和国と正式に外交関係を樹立した。(24日付外務・貿易省公式Twitter)

(3) インド・カリコム外相会議

2022年9月23日、ニューヨークで開催された国連総会の傍ら、第4回インド・カリコム外相会議が開催された。S. ジャイシャンカール外務大臣とベリーズのイーモン・コートニー外務・貿易・移民大臣が会議の共同議長を務めた。会議には、バルバドス、ドミニカ、バハマ、グレナダ、ガイアナ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネイビス、セントビンセント・グレナディーン、トリニダード・トバゴ、スリナムの外務大臣が出席した。特に、政治的関与を深め、パンデミック後の経済回復という観点から貿易・投資および協力の拡大について議論を行い、また、開発提携およびオーダーメイドの専門的なトレーニングコースを含む能力開発について協議した。(24日付インド外務省プレスリリース)

4 日・ジャマイカ関係

(1) 日本とジャマイカ、友好協会設立により関係を深める

ジャマイカと日本の関係は、両国間の人的交流と相互理解を深めることを目的とした協会の発足により強化されている。ジャパマイカとの愛称で親しまれる日本ジャマイカ友好協会(JJFA)が8月27日、東京のジャマイカ大使館で発足し、ジャマイカの在日外交官のトップであるショーナー・ケイ・リチャーズ大使が、キング

ストーンと東京間の外交関係における重要なマイルストーンとして歓迎した。ジャマイカと日本は2024年に二国間の外交樹立60周年を祝う予定である。(11日付オブザーバー紙)

(2) レゲエと日本、ジャマイカの観光にとって勝算のある組み合わせ

ジャマイカ観光省は、日本人観光客をターゲットにすることはジャマイカ、おそらく他のカリブ海諸国にとっても大きな勝利となると考えている。パンデミックから力強く回復中であるジャマイカにとって、日本の海外旅行市場の開拓は優先順位が高いことをエドムンド・バートレット観光大臣が述べた。東京で開催中のジャパン・エキスポにて日本旅行業協会(JATA)の幹部と有意義な話し合いを行った。

(26日付イーターボニュース)

(3) バートレット観光大臣、武井外務副大臣とグローバル・ツーリズム・レジリエンス設立について協議

エドムンド・バートレット観光大臣は、東京の外務省にて、武井外務副大臣を表敬訪問し、グローバル・ツーリズム・レジリエンス及び危機管理センターの設立、日本とジャマイカ間の強固な関係について協議した。経済協力、農業、観光、教育、エネルギー、健康とその他いくつかの共通の開発課題であるハイレベルな領域にも触れた。日本滞在中、バートレット観光大臣は第9回目のグローバル・ツーリズム・レジリエンス及び危機管理センター(GTRCMC)オンライン講演に参加。9月19日に日本を発ち、9月28日に戻る予定。(24日付ライトアップス24ウェブサイト)

5 新型コロナウイルス・サル痘関連

(1) サル痘ワクチンが今月入荷予定

クリストファー・タフトン保健福祉相によると、サル痘治療用ワクチンの第一陣が9月中にジャマイカに到着する予定。保健福祉省では、5例のサル痘患者が報告されている。(1日付広報局)

(2) 新型コロナウイルス最新情報

9月26日(月)現在、新規感染46件、回復111件、陽性率は17.9%(27日付保健・厚生省プレスリリース)

(3) サル痘週間最新情報

9月25日(日)現在、新規感染1件、回復3件、現在治療中患者数は5件、累計感

染者数は14件。(25日付保健・厚生省プレスリリース)

この資料は、ジャマイカの政治・経済情勢を中心に各種報道・発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は、在ジャマイカ日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。